2025年度

情報ネットワーク科
講義計画集

― 第2学年 ―

氏名

船橋情報ビジネス専門学校
〒273-0005　船橋市本町7-12-16
電話:047-425-1051

2025年度　（令和7年度）　年間計画表

2025/3/13 現在

前　期

4月		5月		6月		7月		8月	
1 火		1 木	木4回 25N研修合宿	1 日		1 火	火11回	1 金	
2 水	新入生 オリエンテーション	2 金	金4回	2 月	月8回	2 水	水12回	2 土	
3 木		3 土	憲法記念日	3 火	火7回	3 木	木12回	3 日	
4 金	入学式	4 日	みどりの日	4 水	水8回	4 金	金13回 漢字検定①	4 月	
5 土		5 月	こどもの日	5 木	木8回	5 土		5 火	
6 日		6 火	振替休日	6 金	金9回	6 日		6 水	
7 月	始業式	7 水	水4回	7 土	**休館日**	7 月	月13回	7 木	
8 火		8 木	**月曜振替4回**	8 日		8 火	火12回	8 金	
9 水	前期スタート 水1回	9 金	金5回	9 月	月9回	9 水	水13回	9 土	
10 木	木1回	10 土	**休館日**	10 火	火8回	10 木	体育祭	10 日	
11 金	金1回	11 日		11 水	水9回	11 金	金14回	11 月	山の日
12 土		12 月	月5回	12 木	木9回	12 土		12 火	受付業務停止
13 日		13 火	火4回	13 金	金10回 駅前C	13 日		13 水	
14 月	月1回	14 水	水5回	14 土		14 月	月14回	14 木	
15 火	火1回	15 木	木5回	15 日	県民の日	15 火	火13回	15 金	
16 水	水2回	16 金	金6回 26卒就職G	16 月	月10回	16 水	水14回	16 土	
17 木	木2回	17 土		17 火	火9回	17 木	木14回	17 日	
18 金	金2回	18 日		18 水	水10回	18 金	金15回	18 月	
19 土	**休館日**	19 月	月6回	19 木	木10回	19 土		19 火	成績発表
20 日	国家試験	20 火	火5回	20 金	金11回	20 日		20 水	
21 月	月2回	21 水	水6回	21 土		21 月	海の日	21 木	
22 火	火2回	22 木	木6回	22 日		22 火	火14回	22 金	
23 水	水3回	23 金	金7回	23 月	月11回	23 水	水15回	23 土	同窓会
24 木	木3回	24 土		24 火	火10回	24 木	木15回	24 日	
25 金	金3回	25 日		25 水	水11回	25 金	金16回	25 月	
26 土	**休館日**	26 月	月7回	26 木	木11回	26 土		26 火	再試発表
27 日		27 火	火6回	27 金	金12回 26卒就職G	27 日		27 水	26卒就職G
28 月	月3回	28 水	水7回	28 土		28 月	月15回	28 木	
29 火	昭和の日	29 木	木7回	29 日		29 火	前期試験 火15回	29 金	
30 水	**火曜振替3回** 25N研修合宿	30 金	金8回	30 月	月12回	30 水	水16回	30 土	
		31 土				31 木	追試	31 日	

※新入生オリエンテーションで胸部レントゲン撮影実施

後　期

9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1 月		1 水	水3回	1 土		1 月	月10回	1 木	元旦	1 日		1 日	
2 火		2 木	木4回	2 日		2 火	火10回	2 金		2 月	後期試験 月16回	2 月	27卒学内合説
3 水	FJB合同合宿	3 金	金4回	3 月	文化の日	3 水	水11回	3 土		3 火	火15回	3 火	
4 木	FJB合同合宿	4 土		4 火	火6回	4 木	木12回	4 日		4 水	追試	4 水	
5 金		5 日		5 水	水7回	5 金	金13回	5 月		5 木		5 木	卒業生登校日
6 土		6 月	月4回	6 木	木9回	6 土		6 火		6 金		6 金	卒業式
7 日		7 火	火3回	7 金	金9回 ひろえば船橋	7 日	ジョブパス	7 水		7 土		7 土	
8 月		8 水	水4回	8 土		8 月	月11回	8 木	木14回	8 日		8 日	
9 火		9 木	木5回	9 日		9 火	火11回	9 金	金14回	9 月		9 月	
10 水	後期スタート 水1回	10 金	金5回	10 月	月7回	10 水	水12回	10 土		10 火		10 火	
11 木	木1回	11 土		11 火	火7回	11 木	木13回	11 日		11 水	建国記念の日	11 水	
12 金	金1回	12 日	国家試験	12 水	水8回	12 金	27卒就職G	12 月	成人の日	12 木	卒業研究発表会	12 木	
13 土		13 月	スポーツの日	13 木	木10回	13 土		13 火	火12回	13 金	卒業研究発表会	13 金	終業式
14 日		14 火	火4回	14 金	金10回	14 日		14 水	水13回	14 土		14 土	
15 月	敬老の日	15 水	水5回	15 土	26卒就職G(保護者)	15 月	27卒就職G	15 木	**月曜振替12回**	15 日		15 日	
16 火	火1回	16 木	木6回	16 日		16 火	27卒就職個人面談	16 金	金15回	16 月	27卒就職G	16 月	
17 水	**月曜振替1回**	17 金	金6回	17 月	月8回	17 水	27卒就職個人面談	17 土		17 火	27卒Web面接練習	17 火	
18 木	木2回	18 土		18 火	火8回	18 木	27卒就職個人面談	18 日		18 水	卒業生成績発表	18 水	
19 金	金2回	19 日	漢字検定②	19 水	水9回	19 金	27卒就職個人面談	19 月	月13回	19 木	在校生成績発表	19 木	
20 土		20 月	月5回	20 木	木11回	20 土		20 火	火13回	20 金		20 金	春分の日
21 日		21 火	火5回	21 金	金11回	21 日		21 水	水14回	21 土		21 土	
22 月	月2回	22 水	水6回	22 土		22 月	27卒就職個人面談	22 木	木15回	22 日		22 日	
23 火	秋分の日	23 木	木7回	23 日	勤労感謝の日	23 火	27卒就職個人面談	23 金	金16回 漢字検定③	23 月	天皇誕生日	23 月	
24 水	水2回	24 金	金7回	24 月	振替休日	24 水		24 土		24 火		24 火	
25 木	木3回	25 土	若幸祭前日準備	25 火	火9回	25 木		25 日		25 水		25 水	
26 金	金3回 26卒就職G	26 日	若幸祭当日	26 水	水10回	26 金		26 月	月14回	26 木	球技大会	26 木	プレスクール
27 土		27 月	若幸祭振替休日	27 木	**月曜振替9回**	27 土		27 火	火14回	27 金	再試発表	27 金	
28 日		28 火	若幸祭振替休日	28 金	金12回	28 日	受付業務停止	28 水	水15回	28 土		28 土	保護者説明会
29 月	月3回	29 水	**月曜振替6回**	29 土		29 月		29 木	木16回			29 日	
30 火	火2回	30 木	木8回	30 日		30 火		30 金	後期試験 月曜振替15回			30 月	
		31 金	金8回			31 水		31 土				31 火	

※台風など臨時休校が多い時は12月3週で対応

※26卒入社前講話

※27卒IIT,CHISA合説

※年間講義回数

月	31回
火	30回
水	31回
木	31回
金	32回

2学年

本校の教育方針 …… 1
評価について／出欠席ルール …… 3
FJBネットID登録とメールアドレス …… 4
実習室・インターネット使用上のルール・マナー …… 4
個人情報保護に関する基本方針 …… 5
教育目標と検定スケジュール …… 6

卒業研究Ⅰ・Ⅱ …… 7
Linuxサーバ構築Ⅰ・Ⅱ …… 9
ネットワーク構築Ⅰ・Ⅱ …… 11
フロントエンド開発演習 …… 13
バックエンド開発演習Ⅰ・Ⅱ …… 14
プレゼンテーション演習 …… 16
就職講座A応用 …… 17
社会人基礎力応用Ⅰ・Ⅱ …… 18
C#プログラミング演習S …… 20
情報倫理と生成AI活用S …… 21
応用情報ネットワーク対策講座SⅠ・Ⅱ …… 22
とっさに使えるフレーズ英語S …… 24
応用情報組込みシステム開発対策講座S …… 25
応用情報ストラテジスト対策講座S …… 26
LPIC対策講座S …… 27
ゲーム制作S …… 28
Office演習応用S …… 29
応用情報サービスマネジメント対策講座S …… 30
応用情報総合対策講座S …… 31
実践的セキュアプログラミング演習S …… 32
Javaプログラミング演習S …… 33
応用情報プロジェクトマネジメント対策講座S …… 34
応用情報午前対策講座S …… 35
キャリアデザインS …… 36
Pythonプログラミング演習S …… 37
応用情報システム監査対策講座S …… 38

本校の教育方針

船橋情報ビジネス専門学校
校　長　　鳥　居　高　之

教育理念「若者をハッピーに」

これが本校の教育理念です。しかし幸せの形は人によって違いますし、卒業式で「はいどうぞ」と手渡しできるものではありません。在学中だけハッピーならよい訳でもありません。その後こそ重要です。従って私たち教職員の使命とは、学生のみなさんが職業人・社会人として豊かな人生を送るために、その土台作りのお手伝いをするという事になります。あくまでも主役は学生本人です。また社会に出てハッピーになる最低条件としては、大人として自立していなければなりません。その自立に欠かせないのが自律です。自律とは自分と闘うということです。ただ欲望や本能のままに行動するなら動物と同じです。すなわち、「自律 → 自立 → ハッピー」という順番です。私達もみなさんのお手伝いに全力を尽くしますが、自立した大人になる独力を忘れないでください。

勉強は教わるものではない

初年度のみ先生方は手取り足取り親切に教えてくれます。高校までに自分なりの勉強方法が身に付いていない人もいるからです。しかし２年目からは最後まで教えません。「まずは自分で考えてみなさい」と指導します。なぜでしょうか。将来みなさんが就職する会社に、そんな面倒見のよい上司や先輩がいるでしょうか。みな仕事を抱えています。社会に出れば自分で勉強するのが当たり前です。質問・相談もできますが、自分で調べて考えるのが大原則です。その姿勢を在学中に身に付けてください。２年生になって先生の態度が変わるのはそのためです。急に厳しくなったと勘違いする学生がいますが、みなさんの真の成長を望んでいるのだということに気付いて欲しいです。

またスピード制限もしていません。もし授業の内容を既に理解していると感じる人は申し出てください。指導教員がそう判断すれば別メニューを設定します。クラス全体に歩調を合わせる必要はありません。どんどん前に進んでください！

人間教育の重視

人と接するのが苦手だからコンピュータの仕事に就きたいという学生がいます。大きな勘違いです。コンピュータの向こうには生身の人間がいます。どんなビジネスでも主役は人です。技術や資格ではなく人が仕事をするのです。そして人は一人では生きて行けない生き物です。仕事にせよ日常生活にせよ、常に他者との係わりの中で生きています。本校は単なる就職予備校ではないのです。人間教育を技術教育以上に重視しています。特に次の２つを心がけて欲しいです。

元気に明るく挨拶（あいさつ）

明るい人はみんなに好かれます。明るさの第一歩は、自分から元気に挨拶することです。そのような新入社員は職場でも愛されます。学校の先生方や来校されるお客様に練習台になっていただき、どんどん自分から挨拶しましょう。

３つの守り

本校がとても大切にしている３つの守りとは、「時間を守る、約束を守る、ルールを守る」です。単純ですが、当たり前のことを当たり前にやるのは実は大変なことです。自律できない人は自分と闘えません。つまり自立もできません。

「ルールを守る」に関しては考えて欲しいことがあります。学校生活だけでなく今後の生き方にも係わることです。ルールや法律を守るのは、叱られない罰せられないためでしょうか。世の中を見渡すと、法に触れなければいい、見つからなければいい、と考える者もいます。真の大人になり損ねた、自己中心のニセ大人です。みなさんには、「そんなことをしたら人として、大人として恥ずかしい」と自分を律して行動できる、良識ある職業人・社会人になって欲しいと願っています。以下校内のルールやマナーについて、少し補足しておきます。

通学

（１）バイク・自動車通学全面禁止。

（２）自転車は学生課に登録し所定の駐輪場所を利用。

エレベーター

（１）学生はドアの注意書きに従うこと。下りは全面禁止。

（２）授業開始前および終了後の５分間は使用禁止。（教員優先）

（３）３号館は全面使用禁止。

禁煙

教職員、学生、成年、未成年者にかかわらず校内及び天沼公園・学校周辺は全面禁煙。

※路上はもちろん、駐車場やマンション共用部などの私有地での喫煙は地域の方に大変な迷惑をかけることになります。

絶対にやめてください。（懲戒処分の対象となります）

※船橋駅前から本校までの路上喫煙は条例により禁止され過料(2,000円)の対象です

交通ルール

３号館前の大通りは横断絶対禁止。過去に死亡事故あり。横断歩道を使うこと。

重大なルール違反やマナー違反をした場合は、校長面接の上、停学や退学処分になることもありますので、学生の本分を守り勉学や学校生活に励んでください。なお本校では、学生が直接メールを校長宛に出すことができます。何か要望や相談があれば、いつでもメールしてください。　takatorii@mitsuhashi.ac.jp

以上

評価について

（１）評価とは成績証明書にＳ～Ｄで表現され記載される、その科目の最終的な成績のことを指す。
（２）評価は、合計点を用いて算出する。合計点とは、定期試験の素点に授業態度や出席状況、課題提出等の平常点を合計して算出したものである。

評価は以下の基準を用いる。（点または%）

Ｓ　　９０以上
Ａ　　８０～８９
Ｂ　　５０～７９
Ｃ　　４０～４９
Ｄ　　３９以下

（３）評価Ｄの者は、単位未修得者として処理される。
（４）評価Ｄの者には所定の手続きの後、再試験を実施する。ただし、再試験は特別の場合を除き、レポートに代替する。再試験に合格した場合その科目の評価はＣとする。（特別な努力が認められたものは、Ｂ評価になることもある。）

GPA(Grade Point Average)

GPAとは、学生の成績の平均値を表したもので学期ごとにGPAを算出する。算出方法は以下の通り
科目の評価（S～Dの5段階）に応じて、4.0～0.0の得点(GP)を設定し、科目ごとの得点(GP)
に科目の単位数をかけた値を全履修科目分合算し、その値を履修科目の総単位数で割り、
少数点第二位を四捨五入したものをGPAとする。
なお、GPAを算出するタイミングは各学期の成績発表時点とする。その時点で評価がDの
科目のGPは、後日再試験に合格していても0.0となる。
GPA＝【GP　×　履修科目の単位数】の合計　/　履修科目の総単位数

出欠席ルール

（１）遅刻３回で欠課１回、欠課６回（１年生はSHR分の遅刻１回を含む）で１日の欠席とみなし、次の条件で換算する
・SHRの遅刻及び欠席で「遅刻１」※SHRは１年生のみ
・授業開始15分までの入室で「遅刻１」
・授業開始15～45分までの入室で「欠課１」
・授業開始45～60分までの入室で「欠課１＋遅刻１」
※90分授業の前半45分の欠課１、後半15分までの遅刻１という考え方でカウントする
・授業開始60分以降の入室で「欠課２」
（２）年間５５日の欠席で進級停止、退学勧告。
（３）交通機関の乱れによる遅刻の場合は「遅延証明をもらう」。ただしバスは適用外。

レベル	欠席日数	学校側からのアクション	備考
1	無断欠席	担任が自宅へ電話する	
2	累積１０日欠席	自宅へ警告書を郵送する	警告書の郵送は累積１０日になった時点で行う。
3	累積２５日欠席	校長面接を行う	警告書の郵送は累積２５日になった時点で行う。
4	累積４０日欠席	校長面接において「退学警告」を行う	保護者同伴で行う。
5	累積５０日欠席	校長面接において「最終警告」を行う	同上
6	累積５５日欠席	①自宅へ退学勧告通知書を郵送する ②掲示板に名前を張り出す	退学を勧告する。

※「退学勧告」とは・・・１ヶ月以内に退学届けを提出すれば「自主退学」扱いとなります。以後は「強制退学処分」とします。

卒業認定

以下の条件に基づき学校長と教職員による卒業判定会議を経て学校長に認められた者について卒業を認定する
（１）履修した全ての科目において単位修得していること
（２）原則として各年度において年間55日以上の欠席がないこと

FJBネットID登録とメールアドレス

１．ユーザID登録について

本校では、学生１人ひとりにユーザIDを発行しております。このIDでログインすると、学校内のネットワーク環境が利用できます。課題の保存、教材の受け渡し、メールでのコミュニケーションなどに活用して下さい。

２．メールアドレスについて

（１）科によってメールアドレスが設定されています。
詳細は担任から説明があります。

（２）「ＦＪＢインターネット＆イントラネット」画面の「先生へのメール」をクリックして電子メールを活用して下さい。

（３）Ｗｅｂメールでの各個人に与えられている容量は５０ＭＢまでです。整理せずに企業からの大切なメールを受理できないケースがありました。不必要なメールはこまめに消去してください。

３．緊急連絡について

クラスの諸連絡、台風や大雪等の休校等の連絡はグループコミュニケーションツールを使用します。（スマートフォンでも使用可能）各自、常に最新の投稿を確認するようにしてください。投稿を確認していない場合、自己責任です。またツールを使用する環境がない場合は担任に申し出てください。

実習室・インターネット使用上のルール・マナー

１．実習室の放課後開放について

放課後、午後６時まで実習室を開放します。開放時間中に清掃（清掃時間を入り口に掲示）が入ります。その際は一度退出をお願いします。気持ちよく使えるよう、ご協力ください。

２．実習室に、飲食物は持ち込んではいけません

パソコンは精密な電子機械です。水、粘着質の糖分、細かなゴミ、小さな金属物などを嫌います。実習室では、飲食行為も持ち込みも、厳禁です。

３．本校のパソコンに、ゲーム（その他ソフト）をインストールしてはいけません

雑誌の付録のＣＤ－ＲＯＭを持ち込んだり、インターネットでダウンロードしたりして、ゲームなどのソフトを本校のパソコンにインストールしてはいけません。

４．ＵＳＢなどの記憶媒体は必ずウイルスチェックをするようにして下さい

記憶媒体を本校で使用する場合は、監督の先生に申し出てウイルスチェックをしてもらって下さい。その後、許可します。

５．実習ファイルを保存するための領域をＩドライブに用意してあります

必要なファイルのみ保存し、常に整理を心がけてください。ゲームファイル、過度な容量のファイルの保存を禁止します。（卒業研究等、必要な場合を除く）

６．インターネットを利用して、画像、音楽などを不正使用してはいけません

画像・音楽データなどはすべて、著作権があります。さらに、人物の写真には肖像権、アイドルの写真にはパブリシティ権があります。個人的な利用の範囲を超えて、使用してはいけません。ＨＰやブログに貼り付けることはこれらの権利の侵害で、犯罪行為です。

７．インターネットに、非常識な書き込みをしてはいけません

インターネットの世界は、限られた若者のギャグやシャレの場ではありません。善意ある人達の、世界的に開かれた場です。匿名性を利用した破廉恥な書き込みは、卑怯者の行為です。一見匿名ですが、アクセス記録は残りますから、必ず追跡されます。

以上の約束が守れない場合は、指導の対象となります。
また、悪質な場合は、停学・退学を含めた処置を検討します。

学校法人三橋学園　船橋情報ビジネス専門学校
個人情報保護に関する基本方針（プライバシーポリシー）

船橋情報ビジネス専門学校

船橋情報ビジネス専門学校は、教育機関としての社会的責任を果たすために、以下の個人情報保護方針(プライバシーポリシー)を定め、教職員およびその他の関係者に周知徹底し、これを実行します。

１．個人情報の取り扱いについては、教育上または業務上必要な範囲内において利用目的をできるだけ特定した上で、権限を与えられた者のみに許可します。

２．個人情報に対する不正アクセス、紛失、破壊、改ざんおよび漏えい等を防止するために、適切な安全対策を講じます。

３．取得した個人情報は、以下の目的に利用します。
（１）本校の授業、検定試験、行事等の通知・連絡・管理を行うため
（２）就職指導、企業紹介、就職活動支援を行うため
（３）入学相談および募集活動を行うため
（４）入学選考試験業務を行うため
（５）各種証明書等の発行業務を行うため
（６）上記のほか、教育上必要と判断される業務や活動を行うため

４．本校は以下のような場合において、必要とされる範囲内で個人情報を関係者または第三者に提供もしくは公開することがあります。
（１）在学生の保護者に対し、本人の学業成績、出欠席状況、資格取得状況等の提供
（２）在学生もしくは卒業生の出身校に対し、本人の出欠席状況、資格取得状況、就職状況等の提供
（３）学内での定期試験合格者、資格取得者、就職内定者情報等の公開
（４）職業紹介で応募を希望する求人先に対し、応募情報の提供
（５）職業紹介で求職者に開示の許諾を得た業務提携先に対し、応募情報の提供
（６）就職指導室における、在学生もしくは卒業生の就職先、就職活動記録等の公開
（７）本校への入学希望者に対する、在学生もしくは卒業生の就職または就職内定先情報および、学校案内や本校ホームページに記載されている情報等の提供
（８）上記のほか、本校の教育上もしくは業務上必要と判断される場合

５．上記以外の利用目的で個人情報を収集する場合は、別途本人および保護者に通知します。

６．以上のように、本校による関係者および第三者への個人情報の提供は、教育上もしくは業務上必要であると判断した上で行っておりますが、希望しない場合は所定の手続による請求をすることで停止できます。

個人情報の開示、訂正、利用停止の請求および取り扱いに対する問い合わせは下記までお願いします。

校長　鳥居　高之
０４７－４２５－１０５１
takatorii@mitsuhashi.ac.jp

教育目標と検定スケジュール

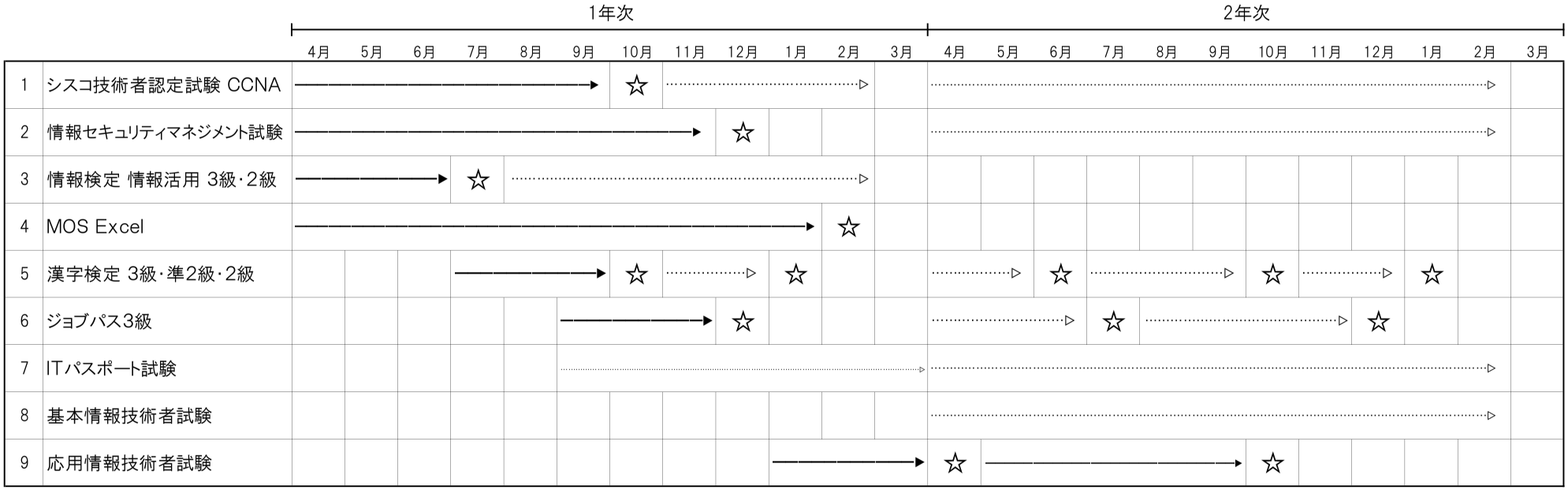
情報ネットワーク科

教育目標	・ネットワーク構築、サーバ構築及び運用管理を行える人材の育成 ・情報処理基礎技術の修得 ・社会人として必要な能力の養成 （コミュニケーション能力,プレゼンテーション能力）
目標資格	・シスコ技術者認定試験 ＣＣＮＡ ・情報セキュリティマネジメント試験 ・ＩＴパスポート試験 ・基本情報技術者試験 ・応用情報技術者試験
進級条件	・漢字検定３級 ・ジョブパス３級
卒業条件	・卒業制作

基本方針
①自ら調べ、考えながら問題を解決する能力や姿勢を身につける
②コミュニケーション能力を育成する
③１年次は資格取得、２年次は実技面を育成する

１年次
①インフラエンジニアとしての資格合格を目指す
CCNA,情報セキュリティマネジメント試験
②社会人基礎資格の取得
漢検3級,ジョブパス3級,J検3級,MOS/Excel
③コンピュータ基礎力を育成する
④プログラミングの基礎学習を行う
⑤ビジネス能力の向上、就職対策を行う

２年次
①インフラエンジニアとしての技術習得を目指す
Linuxサーバ構築,ネットワーク構築,データベース,PHP
②プロジェクト管理力・プレゼンテーション力を身につける
③プログラミングの応用演習を行う
④Officeを利用した応用演習を行う



情報ネットワーク科	2年

【前期】

科　目	卒業研究Ⅰ	分　類	専門科目、必修科目
担　当	橘　純平・高橋　洋平		
テキスト（出版社）	関連科目のテキストを使用		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	30%	40%	0%	0%	30%	100%

単位数	6

1. 授業の概要

システム開発の流れやチーム開発を経験する。

2. 授業の目標（検定取得など）

1年次に学んできたネットワークの知識や、仮想マシン・Webアプリの知識を活かしたシステムを構築する。
チームで業務を遂行する力を養う。

3. 注意点・要望

成果物のクオリティは勿論、社会で求められる「チームで業務を完遂する」力や試みを重視する。
この授業では、教員は学生の上司であり顧客であるという立場を取る。実務を想定した開発経験を積んでください。

4. 関連科目

バックエンド開発演習、フロントエンド開発演習

週	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業説明、スケジュールの確認、卒業研究のテーマ発表と説明
2	個人課題(1)	Webアプリ、スマホアプリ調査(1)
3	個人課題(2)	Webアプリ、スマホアプリ調査(2)
4	個人課題(3)	調査結果の発表
5	チーム編成 テーマに準じた制作物の構想(1)	制作物の構想を練る(1)
6	テーマに準じた制作物の構想(2)	制作物の構想を練る(2)
7	テーマに準じた制作物の構想(3)	制作物の構想を練る(3)
8	卒業制作(1)	チーム別卒業制作(1)
9	卒業制作(2)	チーム別卒業制作(2)
10	卒業制作(3)	チーム別卒業制作(3)
11	卒業制作(4)	チーム別卒業制作(4)
12	卒業制作(5)	チーム別卒業制作(5)
13	発表準備(1)	資料整理と成果物の最終調整　発表準備(1)
14	発表準備(2)	資料整理と成果物の最終調整　発表準備(2)
15	前期成果発表	成果発表
16	前期試験期間	–

備　考	–

情報ネットワーク科	2年

【後期】

科　目	卒業研究Ⅱ	分　類	専門科目、必修科目
担　当	橘　純平・高橋　洋平		
テキスト（出版社）	関連科目のテキストを使用		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	30%	40%	0%	0%	30%	100%

単位数	8

1. 授業の概要

システム開発の流れやチーム開発を経験する。

2. 授業の目標（検定取得など）

1年次に学んできたネットワークの知識や、仮想マシン・Webアプリの知識を活かしたシステムを構築する。
チームで業務を遂行する力を養う。

3. 注意点・要望

成果物のクオリティは勿論、社会で求められる「チームで業務を完遂する」力や試みを重視する。
この授業では、教員は学生の上司であり顧客であるという立場を取る。実務を想定した開発経験を積んでください。

4. 関連科目

バックエンド開発演習、フロントエンド開発演習

週	テーマ	内　容
1	卒業制作(6)	スケジュールの確認と調整 チーム別卒業制作(6)
2	卒業制作(7)	チーム別卒業制作(7)
3	卒業制作(8)	チーム別卒業制作(8)
4	卒業制作(9)	チーム別卒業制作(9)
5	後期成果発表(1)	成果発表(1)
6	卒業制作(10)	チーム別卒業制作(10)
7	卒業制作(11)	チーム別卒業制作(11)
8	卒業制作(12)	チーム別卒業制作(12)
9	卒業制作(13)	チーム別卒業制作(13)
10	後期成果発表(2)	成果発表(2)
11	卒業制作(13)	チーム別卒業制作(13)
12	卒業制作(14)	チーム別卒業制作(14)
13	卒業制作(15)	チーム別卒業制作(15)
14	卒業制作(16)	チーム別卒業制作(16)
15	後期成果発表(3)	成果発表(3) 制作物の提出
16	後期試験期間	–

備　考	–

情報ネットワーク科	2年

【前期】

科　目	Linuxサーバ構築Ⅰ	分　類	専門科目、必修科目
担　当	高橋　洋平		
テキスト（出版社）	Linuxコマンドブック　ビギナーズ　第5版（SBクリエイティブ株式会社）		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	20%	0%	50%	0%	0%	30%	100%

単位数	4

1. 授業の概要

LinuxやOSについて学び、Linuxの操作コマンドを修得する。

2. 授業の目標（検定取得など）

Linuxについて自分の言葉で説明でき、コマンドによる基本操作が行えることを目標とする。

3. 注意点・要望

お互いに教え合いながら進めることを推奨する。

4. 関連科目

－

週	テーマ	内　容
1	導入 ログイン・ログアウト	授業の進め方や諸注意 サーバへのログイン・ログアウト
2	シェル	シェルの概要、コマンドによる操作の確認
3	コマンド操作(1)	ディレクトリ構造について ファイル・ディレクトリの一覧表示、コマンドによるテキストファイルの開き方
4	コマンド操作(2)	ログインユーザの表示、現在日時の確認、リダイレクション ディレクトリの作成・削除、ファイルのコピー・移動・削除
5	コマンド操作(3)	ファイル情報の確認 ファイルやディレクトリの保護モード
6	コマンド操作(4)	標準入出力とデバイスファイル
7	SSH認証鍵	SSH認証鍵の作成
8	エディタ(1)	viエディタの基本操作
9	エディタ(2)	viエディタを使ったテキストファイル編集
10	正規表現	正規表現を使った検索方法
11	コマンド操作応用（1）	ファイル検索
12	コマンド操作応用（2）	ファイル内容で検索、コマンドを連続して使う
13	コマンド操作応用（3）	フォアグランド処理とバックグラウンド処理、コマンドの強制終了
14	コマンド操作応用（4）	リファレンスマニュアルを参考に、コマンドの使い方を確認(1)
15	コマンド操作応用（5）	リファレンスマニュアルを参考に、コマンドの使い方を確認(2)
16	前期試験期間	効果測定

備　考	－

情報ネットワーク科	2年

【後期】

科　目	Linuxサーバ構築Ⅱ	分　類	専門科目、必修科目
担　当	高橋　洋平		
テキスト（出版社）	Linuxコマンドブック　ビギナーズ　第5版（SBクリエイティブ株式会社）		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	20%	0%	50%	0%	0%	30%	100%

単位数	4

1. 授業の概要

LinuxやOSについて学び、Linuxの操作コマンドを修得する。

2. 授業の目標（検定取得など）

Linuxについて自分の言葉で説明でき、コマンドによる基本操作が行えることを目標とする。

3. 注意点・要望

お互いに教え合いながら進めることを推奨する。

4. 関連科目

–

週	テーマ	内　容
1	導入 仮想環境	後期授業の説明、グループ決め 仮想環境作成
2	OSインストール	仮想環境にOSをインストールする
3	OSの初期設定	OSのアップデート 初期設定(ネットワーク、ユーザ管理、ファイアウォール、パッケージ管理)
4	基本的なサービス	SSH、FTP、telnetなどのインストール・設定・起動
5	Webサーバ(1)	Webサーバの概要とインストール・設定・起動
6	Webサーバ(2)	ユーザ認証、TLS/SSLの設定
7	Webサーバ(3)	バーチャルホスト
8	DNS(1)	DNSの概要とインストール・設定・起動
9	DNS(2)	キャッシュサーバ、ゾーン設定
10	ファイル共有サーバ(1)	ファイル共有サーバの概要とインストール・設定・起動
11	ファイル共有サーバ(2)	ファイル共有サーバのセキュリティ
12	データベースサーバ	データベースサーバの概要とインストール・設定・起動
13	メールサーバ(1)	メールサーバの概要とインストール・設定・起動
14	メールサーバ(2)	セキュリティを考慮したメールサーバの設定
15	サーバ構築・運用(1)	総復習（1）
16	サーバ構築・運用(2)	総復習（2）

備　考	–

情報ネットワーク科	2年

【前期】

科　目	ネットワーク構築Ⅰ	分　類	専門科目、必修科目
担　当	高橋　洋平		
テキスト (出版社)	本校のオリジナルテキスト(青本) シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト＆問題集(翔泳社)		
参考資料	–		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	30%	0%	30%	0%	0%	40%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

シミュレータソフトを利用し、ネットワークの構築を行う。技術的レベルを向上させる。

2. 授業の目標(検定取得など)

ネットワークの設計、構築、トラブルシューティング等から実践的な技術を習得する。

3. 注意点・要望

忘れてしまっている点や分からない部分については、まず自分でしっかりと調べ問題解決能力を養ってください。
自分の課題が早く終わった者は、周囲に教えることでより自己の能力向上につながります。

4. 関連科目

–

週	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方 ネットワーク機器の確認
2	ネットワーク構築シミュレータ(1)	パケトレの使い方・基礎設定とスタティックルート(1)
3	ネットワーク構築シミュレータ(2)	パケトレの使い方・基礎設定とスタティックルート(2)
4	ネットワーク構築シミュレータ(3)	RIPv2を用いたダイナミックルーティング(1)
5	ネットワーク構築シミュレータ(4)	RIPv2を用いたダイナミックルーティング(2)
6	ネットワーク構築シミュレータ(5)	VLSMを用いたアドレス節約(1)
7	ネットワーク構築シミュレータ(6)	VLSMを用いたアドレス節約(2)
8	ネットワーク構築シミュレータ(7)	認証方式(1)
9	ネットワーク構築シミュレータ(8)	認証方式(2)
10	ネットワーク構築シミュレータ(9)	デフォルトルート(1)
11	ネットワーク構築シミュレータ(10)	デフォルトルート(2)
12	ネットワーク構築シミュレータ(11)	PortSecurity(1)
13	ネットワーク構築シミュレータ(12)	PortSecurity(2)
14	総まとめ	これまでの課題内容の確認
15	前期試験期間	効果測定

備　考	–

情報ネットワーク科	2年

【後期】

科　目	ネットワーク構築Ⅱ	分　類	専門科目、必修科目
担　当	高橋　洋平		
テキスト （出版社）	本校のオリジナルテキスト（青本） シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト＆問題集（翔泳社）		
参考資料	–		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	30%	0%	30%	0%	0%	40%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

シミュレータソフトを利用し、ネットワークの構築を行う。技術的レベルを向上させる。

2. 授業の目標（検定取得など）

ネットワークの設計、構築、トラブルシューティング等から実践的な技術を習得する。

3. 注意点・要望

忘れてしまっている点や分からない部分については、まず自分でしっかりと調べ問題解決能力を養うこと。
自分の課題が早く終わった者は、周囲に教えることでより自己の能力向上につながる。

4. 関連科目

–

週	テーマ	内　容
1	復習	パケトレ操作の再確認と前期の復習問題
2	ネットワーク構築シミュレータ(13)	DHCPを用いたアドレス自動配布(1)
3	ネットワーク構築シミュレータ(14)	DHCPを用いたアドレス自動配布(2)
4	ネットワーク構築シミュレータ(15)	ACLの活用方法とフィルタリング(1)
5	ネットワーク構築シミュレータ(16)	ACLの活用方法とフィルタリング(2)
6	ネットワーク構築シミュレータ(17)	OSPFを使用したダイナミックルーティング(1)
7	ネットワーク構築シミュレータ(18)	OSPFを使用したダイナミックルーティング(2)
8	ネットワーク構築シミュレータ(19)	EIGRPを使用したダイナミックルーティング(1)
9	ネットワーク構築シミュレータ(20)	EIGRPを使用したダイナミックルーティング(2)
10	ネットワーク構築シミュレータ(21)	VLAN間ルーティング(1)
11	ネットワーク構築シミュレータ(22)	VLAN間ルーティング(2)
12	ネットワーク構築シミュレータ(23)	ルート再配送(1)
13	ネットワーク構築シミュレータ(24)	ルート再配送(2)
14	最終課題(1)	最終課題の実施(1)
15	最終課題(2)	最終課題の実施(2)
16	後期試験期間	効果測定

備　考	–

情報ネットワーク科	2年

【前期】

科　目	フロントエンド開発演習	分　類	専門科目、必修科目
担　当	橘　純平		
テキスト（出版社）	いちばんやさしいHTML5&CSS3の教本（インプレス）		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	30%	0%	40%	0%	0%	30%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

Webの概要と構築に必要なHTML及びCSS技術を学習する。

2. 授業の目標（検定取得など）

HTML、CSSの基礎を扱うことができるようになる。
Webデザインやサイトの作成が一人でできるようになる。

3. 注意点・要望

エラーを恐れずに自ら挑戦することがのぞましい。

4. 関連科目

バックエンド開発演習Ⅰ

週	テーマ	内　容
1	オリエンテーション Webサイトの作成準備	Webサイトが表示される仕組み、URL、Webサイトに使われるファイルの種類 Webサイトのファイル・フォルダ構造、Webサイトの制作環境を整える
2	HTMLの基礎知識とマークアップ	HTMLとは、HTMLの基本構造、ディレクトリとパス
3	HTML文書の設計（1）	ヘッダーとグローバルナビゲーション
4	HTML文書の設計（2）	メインエリアとパンくずリスト
5	HTML文書の設計（3）	サイドバーとフッター
6	テーブル	テーブルを作成する、アクセシビリティを考慮したテーブル テーブルのデザインバリエーション
7	フォーム	フォームとデータを送受信する仕組み、さまざまなフォーム部品 標準的なフォームの例
8	CSSの基礎知識とページデザイン	CSSの基礎知識、CSSの書式、ページにCSSを適用する
9	テキストの装飾(1)	見出しや本文のフォントサイズの調整、読みやすい行間、 段落のテキストをリード文だけ太字にする、表示するフォントを設定する
10	テキストの装飾(2)	テキストの行揃えを変更する、2行目以降を1文字下げる テキスト色を変更する、見出しにサブタイトルをつける
11	リンクの設定と画像の表示	テキストにリンクを設定する、テキストリンクにCSSを適用する 画像を表示する、画像にリンクをつける、画像にテキストを回り込ませる
12	ボックスと情報の整理(1)	インラインボックスとブロックボックス、箇条書きのマークアップ リストを情報の整理に使う、上手な＜DIV＞の使い方
13	ボックスと情報の整理(2)	CSSのボックスモデル、パディング、ボーダーの設定 2つ以上のボックスを並べる、ボックスのデザインを調整する
14	ページ全体のレイアウトとナビゲーション	実践的なコーディングのために知っておきたいCSSの知識、シングルコラムレイアウト、フレックスボックスを使ったコラムレイアウト、ナビゲーションメニューの作成
15	レスポンシブWebデザイン	レスポンシブWebデザインとは、レスポンシブWebデザインのサイトを作る
16	前期試験期間	–

備　考	–

情報ネットワーク科	2年

【前期】

科　目	バックエンド開発演習Ⅰ	分　類	専門科目、必修科目
担　当	高橋　洋平		
テキスト（出版社）	初心者からちゃんとしたプロになる　PHP基礎入門　改訂2版（エムディエヌコーポレーション）		
参考資料	–		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	40%	0%	30%	0%	0%	30%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

動的なWebアプリケーション開発に必須となるPHPの基礎知識を学習する。
XAMPPやphpMyAdmin等の実務ツールを使用し、データベースとの連携を行いながらアプリケーションの作成を行う。

2. 授業の目標（検定取得など）

PHPの基礎的なコードが書けるようになり、かつ読み取れるようになる。動的なWebアプリケーションを作成できるようになる。

3. 注意点・要望

プログラムエラーは頻繁に発生するものと思ってください。エラー解決も成長につながります。

4. 関連科目

フロントエンド開発演習、卒業研究Ⅰ

週	テーマ	内　容
1	PHPの基本(1)	環境説明、PHPのプログラミングルール、基本文法
2	PHPの基本(2)	四則演算、論理演算
3	PHPの基本(3)	条件分岐(1)
4	PHPの基本(4)	条件分岐(2)
5	フォーム操作(1)	POSTメソッドによるデータの受け渡し(1)
6	フォーム操作(2)	POSTメソッドによるデータの受け渡し(2)
7	フォーム操作(3)	POSTメソッドによるデータの受け渡し(3)、フォームの精度向上
8	配列(1)	１次元配列
9	配列(2)	２次元配列
10	配列(3)	配列のループ処理
11	複数言語の共存	HTMLとPHPの混ぜ書き方法と注意点
12	ファイルの読み込み	include、requireを使用した別ファイルの読み込み、コード再利用
13	関数(1)	関数の機能と利用方法(1)
14	関数(2)	関数の機能と利用方法(2)、クロスサイトスクリプティング対策
15	前期試験期間	効果測定

備　考	–

情報ネットワーク科	2年

【後期】

科　目	バックエンド開発演習Ⅱ	分　類	専門科目、必修科目
担　当	高橋　洋平		
テキスト（出版社）	初心者からちゃんとしたプロになる　PHP基礎入門　改訂2版〈PHP8対応〉（エムディエヌコーポレーション）		
参考資料	–		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	40%	0%	30%	0%	0%	30%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

動的なWebアプリケーション開発に必須となるPHPの基礎知識を学習する。
XAMPPやphpMyAdmin等の実務ツールを使用し、データベースとの連携を行いながらアプリケーションの作成を行う。

2. 授業の目標（検定取得など）

PHPの基礎的なコードが書けるようになり、かつ読み取れるようになる。動的なWebアプリケーションを作成できるようになる。

3. 注意点・要望

プログラムエラーは頻繁に発生するものと思ってください。エラー解決も成長につながります。

4. 関連科目

フロントエンド開発演習、卒業研究Ⅱ

週	テーマ	内　容
1	前期復習	PHP基礎の再確認
2	セッション(1)	セッションの仕組みとクッキー
3	セッション(2)	IDとパスワードを使用したログイン機能の実装
4	セッション(3)	ショッピングサイトにおけるカート機能の実装(1)
5	セッション(4)	ショッピングサイトにおけるカート機能の実装(2)、ログアウト処理
6	データベース連携(1)	データベース概要、環境構築、PDOの理解
7	データベース連携(2)	データの表示、追加
8	データベース連携(3)	データの更新、GETメソッドでのデータ受け渡し
9	データベース連携(4)	データの削除
10	セキュリティ	Webアプリケーションにおけるセキュリティ対策
11	画像ファイルの読み込み(1)	データベースと連携した画像ファイルの読み込みおよび表示(1)
12	画像ファイルの読み込み(2)	データベースと連携した画像ファイルの読み込みおよび表示(2)
13	アプリケーション作成(1)	Web上で動作する、アカウント登録機能を実装したアプリケーションの作成(1)
14	アプリケーション作成(2)	Web上で動作する、アカウント登録機能を実装したアプリケーションの作成(2)
15	後期試験期間	効果測定

備　考	–

情報ネットワーク科	2年

【後期】

科　目	プレゼンテーション演習	分　類	教養科目、必修科目
担　当	橘　純平		
テキスト（出版社）	–		
参考資料	–		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

プレゼンテーションをするための一連の流れを学習し、定着させる。

2. 授業の目標（検定取得など）

考えを言語化し、相手に理解してもらえる表現を身につける。

3. 注意点・要望

上手くいかないことが前提の授業なので、他者の否定をしないこと。

4. 関連科目

卒業研究Ⅱ

週	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方 プレゼンテーションとは何か
2	プレゼンテーションの組み立て	プレゼンテーションの組み立て方法と相手への伝え方
3	内容設計	内容・構成　　声の使い方
4	資料作成	資料の重要さと作り方
5	デザインのルール	適切なフォントの選択と視認性の向上
6	資料編集	資料編集の練習
7	発表方法	発表のコツと立ち回り
8	練習方法	適切な練習方法
9	PowerPointを活用する	プレゼンテーションにおける有効なPowerPointの使い方
10	企画力を身に着ける	企画力の向上
11	プレゼンテーション準備(1)	テーマの発表と準備方法
12	プレゼンテーション準備(2)	実践に向けた準備
13	プレゼンテーション準備(3)	発表・評価(1)
14	プレゼンテーション準備(4)	発表・評価(2)
15	プレゼンテーション準備(5)	発表・評価(3)
16	プレゼンテーション準備(6)	発表・評価(4)

備　考	–

情報ネットワーク科	2年

【前期】

科　目	就職講座A応用	分　類	教養科目、必修科目
担　当	田邊　悦子・遠藤　幹雄		
テキスト（出版社）	求められる人材になるための社会人基礎力講座（日経BP社）		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	30%	40%	0%	30%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

社会人として必要な12の基礎力について、ケーススタディとグループディスカッションを通して理解と自己評価を行う。
社会の仕組みや人間の思考の基本概念から、社会人としてのあり方を考える。

2. 授業の目標（検定取得など）

企業を知り、夏休みまでに企業から内定をいただく（冒頭10分で企業紹介をします）。
入社に向け社会人としての意識を高める。

3. 注意点・要望

就職活動への取り組み状況（就職活動カードと受験報告書）も授業課題として評価対象とします。
社会人として働くことに前向きな気持ちを持って取り組んでください。

4. 関連科目

就職講座A

週	テーマ	内　容
1	就職活動の準備と対策	ガイダンス、今後の就職活動、内定から入社まで、仕事のやりがい
2	社会人基礎力（1）	社会人基礎力とは、人生設計とキャリアデザイン 社会人になるということ、3つの能力と12の要素
3	社会システム（1）	ビジネス会計：　企業の目的、財務諸表、損益計算書の基本と分析
4	社会人基礎力（2）	前に踏み出す力：　主体性
5	社会システム（2）	ビジネス会計：　貸借対照表の基本と分析、経営活動の流れ、ROA、ROE
6	社会人基礎力（3）	前に踏み出す力：　働きかけ力、実行力
7	社会システム（3）	キャッシュフロー計算書の基本と分析、現金の流れと会社の倒産
8	社会人基礎力（4）	考え抜く力：　課題発見力
9	社会システム（4）	時事問題
10	社会人基礎力（5）	考え抜く力：　計画力、創造力
11	社会システム（5）	新たな社会に向けて
12	社会人基礎力（6）	チームで働く力：　発信力,傾聴力,柔軟性,情況把握力,規律性,ストレスコントロール力
13	社会システム（6）	社会心理と組織行動
14	社会人基礎力（7）	チームで働く力：　発信力,傾聴力,柔軟性,情況把握力,規律性,ストレスコントロール力
15	授業の振り返り	–
16	前期試験期間	–

備　考	IT関連の業務経験と就職指導経験のある職員（職業紹介責任者）が、その経験に基づいて、就職活動全般及び個別の事例について、講義と指導を行う

情報ネットワーク科	2年

【前期】

科　目	社会人基礎力応用Ⅰ	分　類	教養科目、必修科目
担　当	橘　純平		
テキスト（出版社）	–		
参考資料	–		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	20%	30%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

様々な学校行事を題材に、社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。

2. 授業の目標（検定取得など）

リーダー・フォロワー、提案、許容、協調等の資質向上。

3. 注意点・要望

「モメていない」＝真剣ではない証拠、「失敗していない」＝チャレンジしていない証拠。
社会に出る前に真の協調性を学んでほしい。

4. 関連科目

–

週	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	社会人基礎力とは、各行事の行動指針を立てる
2	能力の実践(1)	企画を立てる
3	能力の実践(2)	予算案を作成する
4	能力の実践(3)	企画・予算・収支を発表する
5	基礎力評価(1)	ディスカッションもしくはプレゼンテーション形式で各セクションとの意見交換(1)
6	能力の実践(4)	各セクションに分かれて行動(1)
7	能力の実践(5)	各セクションに分かれて行動(2)
8	能力の実践(6)	各セクションに分かれて行動(3)
9	基礎力評価(2)	ディスカッションもしくはプレゼンテーション形式で各セクションとの意見交換(2)
10	能力の実践(7)	各セクションに分かれて行動(4)
11	能力の実践(8)	各セクションに分かれて行動(5)
12	能力の実践(9)	各セクションに分かれて行動(6)
13	能力の実践(10)	各セクションに分かれて行動(7)
14	能力の実践(11)	各セクションに分かれて行動(8)
15	基礎力評価(3)	ディスカッションもしくはプレゼンテーション形式で各セクションとの意見交換(3)
16	前期試験期間	–

備　考	–

情報ネットワーク科	2年

【後期】

科　目	社会人基礎力応用Ⅱ	分　類	教養科目、必修科目
担　当	橘　純平		
テキスト（出版社）	–		
参考資料	–		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	20%	30%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

様々な学校行事を題材に、社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。

2. 授業の目標（検定取得など）

リーダー・フォロワー、提案、許容、協調等の資質向上。

3. 注意点・要望

「モメていない」＝真剣ではない証拠、「失敗していない」＝チャレンジしていない証拠。
社会に出る前に真の協調性を学んでほしい。

4. 関連科目

–

週	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	後期の行事、就職後の活動を意識した活動計画の立案
2	能力の実践（12）	各セクションに分かれて活動(9)
3	能力の実践（13）	各セクションに分かれて活動(10)
4	能力の実践（14）	各セクションに分かれて活動(11)
5	能力の実践（15）	各セクションに分かれて活動(12)
6	活動内容の評価（1）	活動内容の棚卸および評価(1)
7	能力の実践（16）	各セクションに分かれて活動(13)
8	能力の実践（17）	各セクションに分かれて活動(14)
9	能力の実践（18）	各セクションに分かれて活動(15)
10	能力の実践（19）	各セクションに分かれて活動(16)
11	活動内容の評価（2）	活動内容の棚卸および評価(2)
12	能力の実践（20）	2年間を振り返り各自発表準備(1)
13	能力の実践（21）	2年間を振り返り各自発表準備(2)
14	能力の実践（22）	2年間を振り返り各自発表準備(3)
15	能力の実践（23）	2年間を振り返り各自発表準備(4)
16	活動内容の評価（3）	活動内容の棚卸および評価(3)

備　考	–

情報ネットワーク科	2年

【前期】

科　目	C#プログラミング演習S	分　類	専門科目、必選科目
担　当	飯田剛大		
テキスト（出版社）	作って覚える　Visual C# 2022　デスクトップアプリ入門（株式会社秀和システム）		
参考資料	–		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

Visual C#を利用し、Windowsフォームアプリケーションを開発する

2. 授業の目標（検定取得など）

日常生活や仕事における、ちょっとした便利ツールを自身で開発できるようにする

3. 注意点・要望

開発ツールの使い方を覚え、自分の手でプログラムを作成できるようにすること
協力しながら開発して構わない。お互いに教え合うことで自分の理解も深めること

4. 関連科目

–

週	テーマ	内　容
1	ガイダンス Visual C#の概要	Visual Studioの使い方 Visual C#の開発環境の基礎を学習する
2	画面の設計、入力データの取り出し	簡単計算プログラムの作成(1)
3	イベント処理	簡単計算プログラムの作成(2)
4	アプリケーション作成のおさらい	タイマーの作成、付箋アプリの作成
5	画像の扱い	占いアプリの作成
6	大量のコントロール	間違い探しゲームの作成
7	デバッグ	ブレークポイント、ステップ実行、ウォッチウィンドウ
8	オブジェクト指向(1)	オブジェクト指向の概要、プロパティ、メソッド イベント、イベントハンドラ、クラス、インスタンス
9	オブジェクト指向(2)	カプセル化、継承、ポリモーフィズム 抽象クラス、インターフェイス
10	NuGetの利用とファイル入出力	CSVの読み書きアプリ
11	グラフィック機能(1)	間違いボール探しゲームの作成
12	グラフィック機能(2)	間違いボール探しゲームの作成
13	アプリケーション開発(1)	参考書の内容を元に自主制作(1)
14	アプリケーション開発(2)	参考書の内容を元に自主制作(2)
15	アプリケーション開発(3)	参考書の内容を元に自主制作(3)
16	アプリケーション開発(4)	参考書の内容を元に自主制作(4)

備　考	システム開発経験のある教員が、実務経験を生かしてプログラミングの講義を行う

情報ネットワーク科	2年

【後期】

科　目	情報倫理と生成AI活用S	分　類	専門科目、必選科目
担　当	柏木　貴大		
テキスト（出版社）	オリジナル教材		
参考資料	–		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

生成AIを活用するにあたり必要となる情報倫理を学んだうえで、生成AIの活用方法を知ることで社会人として利用できるシーンとそうでないシーンを明確にし、会社に必要な人材となることを目指す。

2. 授業の目標（検定取得など）

情報倫理に反しない生成AIを活用できるようになる。

3. 注意点・要望

生成AIを利用することは暮らしを豊かにするが、知らずのうちに法を犯すリスクが高まる。生成AIを正しく活用するためにも情報倫理を明確に理解すること。

4. 関連科目

–

週	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業の目的、授業概要の共有、生成AIとその種類
2	インターネット活用方法	生成AI以前のインターネットの活用方法、倫理観の共有
3	生成AIの活用方法と情報倫理(1)	実際に試しながら生成AIと情報倫理を学ぶ(1)
4	生成AIの活用方法と情報倫理(2)	実際に試しながら生成AIと情報倫理を学ぶ(2)
5	生成AIの活用方法と情報倫理(3)	実際に試しながら生成AIと情報倫理を学ぶ(3)
6	生成AIの活用方法と情報倫理(4)	実際に試しながら生成AIと情報倫理を学ぶ(4)
7	生成AIの活用方法と情報倫理(5)	実際に試しながら生成AIと情報倫理を学ぶ(5)
8	生成AIの活用方法と情報倫理(6)	実際に試しながら生成AIと情報倫理を学ぶ(6)
9	生成AIの活用方法と情報倫理(7)	実際に試しながら生成AIと情報倫理を学ぶ(7)
10	ビジネスシーン全般での応用(1)	生成AIのビジネスシーン全般への応用方法を学ぶ(1)
11	ビジネスシーン全般での応用(2)	生成AIのビジネスシーン全般への応用方法を学ぶ(2)
12	ビジネスシーン全般での応用(3)	生成AIのビジネスシーン全般への応用方法を学ぶ(3)
13	ビジネスプロセス、システム開発での応用(1)	生成AIのビジネスプロセスやシステム開発への応用方法を学ぶ(1)
14	ビジネスプロセス、システム開発での応用(2)	生成AIのビジネスプロセスやシステム開発への応用方法を学ぶ(2)
15	ビジネスプロセス、システム開発での応用(3)	生成AIのビジネスプロセスやシステム開発への応用方法を学ぶ(3)
16	後期試験期間	–

備　考	IT業界でシステムエンジニアを経験した教員が、実践的な活用方法について講義を行う

情報ネットワーク科	2年

【前期】

科　目	応用情報ネットワーク対策講座ＳＩ	分　類	専門科目、必選科目
担　当	加藤　尚喜		
テキスト（出版社）	–		
参考資料	プリント資料		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	20%	30%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

ネットワーク分野を中心に、応用情報技術者試験に対応できる知識及び考え方を学習する。

2. 授業の目標（検定取得など）

応用情報技術者試験の午後問題に取り組むことのできる知識・思考力を身につける。

3. 注意点・要望

基礎的事項から始めていくので、各授業の復習をしっかりと行うこと

4. 関連科目

–

週	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業の目標、進め方及び評価方法の確認、理解度チェック
2	応用情報ネットワーク対策講座(1)	ネットワーク方式(1) (通信ネットワークの役割、ネットワークの種類と特長、有線・無線LANなど)
3	応用情報ネットワーク対策講座(2)	ネットワーク方式(2) (交換方式、回線に関する計算、インターネット技術など)
4	応用情報ネットワーク対策講座(3)	データ通信と制御(1) (ネットワークアーキテクチャ、伝送方式と回線、ネットワーク接続など)
5	応用情報ネットワーク対策講座(4)	データ通信と制御(2) (伝送制御、メディアアクセス制御など)
6	応用情報ネットワーク対策講座(5)	通信とプロトコル(1) (プロトコルとインタフェース、TCP/IP、OSI7階層の各プロトコルなど)
7	応用情報ネットワーク対策講座(6)	通信とプロトコル(2) (LANとWANのインタフェース、CORBAなど)
8	応用情報ネットワーク対策講座(7)	ネットワーク管理(1) (ネットワーク運用管理、ネットワーク運用管理ツールなど)
9	応用情報ネットワーク対策講座(8)	ネットワーク管理(2) (SNTP、仮想ネットワークなど)
10	応用情報ネットワーク対策講座(9)	ネットワーク応用(1) (インターネット、イントラネット、エクストラネットなど)
11	応用情報ネットワーク対策講座(10)	ネットワーク応用(2) (ネットワークOS、通信サービス、モバイルシステムなど)
12	応用情報ネットワーク対策講座(11)	午後問題演習(1)
13	応用情報ネットワーク対策講座(12)	午後問題演習(2)
14	応用情報ネットワーク対策講座(13)	午後問題演習(3)
15	応用情報ネットワーク対策講座(14)	午後問題演習(4)
16	前期試験期間	–

備　考	– 情報セキュリティ担当者として勤務経験のある教員が、実務経験を活かして講義を行う。

情報ネットワーク科	2年

【後期】

科　目	応用情報ネットワーク対策講座SⅡ	分　類	専門科目、必選科目
担　当	加藤　尚喜		
テキスト（出版社）	–		
参考資料	プリント資料		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	20%	0%	30%	50%	100%

単位数	1

1. 授業の概要

応用情報技術者試験のネットワーク分野に関して、午後問題演習を実施する。

2. 授業の目標（検定取得など）

応用情報技術者試験の合格

3. 注意点・要望

午後問題は記述式解答となるので、不正解でもよいので意識して答えを書き出すことが重要です。

4. 関連科目

–

週	テーマ	内　容
1	応用情報ネットワーク対策講座(1)	午後問題演習(1)
2	応用情報ネットワーク対策講座(2)	午後問題演習(2)
3	応用情報ネットワーク対策講座(3)	午後問題演習(3)
4	応用情報ネットワーク対策講座(4)	午後問題演習(4)
5	応用情報ネットワーク対策講座(5)	午後問題演習(5)
6	応用情報ネットワーク対策講座(6)	秋期試験の反省・春期試験への反映事項 じ後の目標設定(高度情報技術者試験、他の資格取得など)
7	応用情報ネットワーク対策講座(7)	各種資格試験対策(1)
8	応用情報ネットワーク対策講座(8)	各種資格試験対策(2)
9	応用情報ネットワーク対策講座(9)	各種資格試験対策(3)
10	応用情報ネットワーク対策講座(10)	各種資格試験対策(4)
11	応用情報ネットワーク対策講座(11)	各種資格試験対策(5)
12	応用情報ネットワーク対策講座(12)	各種資格試験対策(6)
13	応用情報ネットワーク対策講座(13)	各種資格試験対策(7)
14	応用情報ネットワーク対策講座(14)	各種資格試験対策(8)
15	応用情報ネットワーク対策講座(15)	各種資格試験対策(9)
16	後期試験期間	–

備　考	– 情報セキュリティ担当者として勤務経験のある教員が、実務経験を活かして講義を行う。

情報ネットワーク科	2年

【後期】

科　目	とっさに使えるフレーズ英語S	分　類	専門科目、必選科目
担　当	菊池　浩之		
テキスト（出版社）	–		
参考資料	プリント		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

英語によるコミュニケーション能力の向上を目的とし、様々な場面におけるフレーズ表現をロールプレイで実際に体験しながら学びます。

2. 授業の目標（検定取得など）

日常生活の中で、とっさに英語を使ったコミュニケーションがとれるようになる。

3. 注意点・要望

英語はコミュニケーションツールの一つにすぎません。文法的な間違いを恐れずに、伝えたい・理解したいという気持ちを大切にすること。

4. 関連科目

–

週	テーマ	内　容
1	あいさつと自己紹介	はじめてや久しぶりに会った時のあいさつと近況を訪ねよう
2	日常の会話表現(1)	スモールトーク（雑談）で相手との距離を縮めよう
3	日常の会話表現(2)	感情表現を使って自分の気持ちを相手に伝えよう
4	日常の会話表現(3)	意志・許可・依頼などの表現を使って意志疎通を図ろう
5	日常の会話表現(4)	命令・忠告・関心などの表現を使って意志疎通を図ろう
6	日常の会話表現(5)	身につけたフレーズを使ってコミュニケーションを図ろう
7	日常の会話表現(6)	電話の掛け方や伝言の残し方を、掛け手と受け手でやってみよう
8	旅行に行く(1)	ホテルの予約や現地で道を尋ねよう
9	旅行に行く(2)	ショッピングやレストランで楽しもう
10	旅行に行く(3)	街中の散策や観光名所を回ろう
11	外国人観光客の案内(1)	道案内や電車の乗り換えなど、困っている外国人を助けよう
12	外国人観光客の案内(2)	日本の文化や観光名所を案内してみよう
13	ビジネスで役立つ表現(1)	オフィスでの上司、同僚、部下や顧客とのコミュニケーションを図ろう
14	ビジネスで役立つ表現(2)	会議の中で、意見交換やファシリテーターをしてみよう
15	総合演習	テーマを考えて、ロールプレイを行う
16	後期試験期間	–

備　考	–

情報ネットワーク科	2年

【後期】

科　目	応用情報組込みシステム開発対策講座S	分　類	専門科目、必選科目
担　当	橘　純平		
テキスト（出版社）	オリジナル教材		
参考資料	–		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	30%	0%	20%	50%	100%

単位数	1

1. 授業の概要

応用情報技術者試験合格に向けて、組込みシステム開発の基礎知識、基本となる考え方を学ぶ。

2. 授業の目標（検定取得など）

応用情報技術者試験の合格。

3. 注意点・要望

毎回の知識の積み重ねが必要となる科目なので、欠席をしないこと。

4. 関連科目

–

週	テーマ	内　容
1	リアルタイムOS	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(1)
2	MPUアーキテクチャ	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(2)
3	省電力、高信頼設計、メモリ管理	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(3)
4	センサー	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(4)
5	アクチュエーター	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(5)
6	組込みシステムの設計	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(6)
7	個別アプリケーション(1)	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(7)
8	個別アプリケーション(2)	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(8)
9	個別アプリケーション(3)	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(9)
10	応用情報過去問題演習(1)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(1)
11	応用情報過去問題演習(2)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(2)
12	応用情報過去問題演習(3)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(3)
13	応用情報過去問題演習(4)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(4)
14	応用情報過去問題演習(5)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(5)
15	応用情報過去問題演習(6)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(6)
16	後期試験期間	–

備　考	–

情報ネットワーク科	2年

【後期】

科　目	応用情報ストラテジスト対策講座S	分　類	専門科目、必選科目
担　当	須藤 健一郎		
テキスト（出版社）	–		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	30%	30%	0%	40%	100%

単位数	1

1. 授業の概要

応用情報技術者試験合格に向けて、経営戦略／情報戦略／戦略立案・コンサルティング技法の基礎知識、基本となる考え方を学ぶ。なお、これまでの過去問比率から、約9割が経営戦略の範囲となるので、念頭に入れること。

2. 授業の目標（検定取得など）

応用情報技術者試験の合格。

3. 注意点・要望

本項目の扱う問題は、経営的な目線、戦略的な観点、各種分析、各種計算と、基礎知識が重要で、幅が広く、深い分野になっている。そのため、思考が好きで、経営に興味があり、多角的なものの見方をし、計算問題も挑戦したいという学生に向いた内容と言える。

4. 関連科目

–

週	テーマ	内　容
1	ガイダンスと分野の基礎	経営戦略／情報戦略／戦略立案・コンサルティング技法を学ぶにあたって、学習の仕方を学び、分野対応の基礎固めを実施する。
2	経営戦略対策(1)	経営戦略対策講義、過去問演習、解説(1)
3	経営戦略対策(2)	経営戦略対策講義、過去問演習、解説(2)
4	経営戦略対策(3)	経営戦略対策講義、過去問演習、解説(3)
5	経営戦略対策(4)	経営戦略対策講義、過去問演習、解説(4)
6	経営戦略対策(5)	経営戦略対策講義、過去問演習、解説(5)
7	経営戦略対策(6)	経営戦略対策講義、過去問演習、解説(6)
8	経営戦略対策(7)	経営戦略対策講義、過去問演習、解説(7)
9	経営戦略対策(8)	経営戦略対策講義、過去問演習、解説(8)
10	経営戦略対策(9)	経営戦略対策講義、過去問演習、解説(9)
11	経営戦略対策(10)	経営戦略対策講義、過去問演習、解説(10)
12	情報戦略対策(1)	情報戦略対策講義、過去問演習、解説(1)
13	情報戦略対策(2)	情報戦略対策講義、過去問演習、解説(2)
14	戦略立案・ コンサルティング技法対策(1)	戦略立案・コンサルティング技法対策講義、過去問演習、解説(1)
15	戦略立案・ コンサルティング技法対策(2)	戦略立案・コンサルティング技法対策講義、過去問演習、解説(2)
16	後期試験期間	–

備　考	–

情報ネットワーク科	2年

【前期】

科　目	LPIC対策講座S	分　類	専門科目、必選科目
担　当	高橋　洋平		
テキスト（出版社）	オリジナルプリント教材、Web問題集（ping-t）		
参考資料	–		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	0%	60%	10%	30%	100%

単位数	4

1. 授業の概要

Linuxの基本操作やシステム管理の基礎を学習する。
LPIC102試験への合格を目指す。

2. 授業の目標（検定取得など）

Linux技術者認定試験 LPICレベル101および102取得。

3. 注意点・要望

教科書や授業資料、Web問題集を駆使して反復学習を心がけること。LPICレベル102を取得した学生は上位のレベルを目指す。

4. 関連科目

Linuxサーバ構築ⅠⅡ

週	テーマ	内　容
1	Linux技術者認定試験概要	LPIC試験およびLinux試験概要の説明
2	ハードウェア・システムアーキテクチャ	設定と構成、システムのブート、ランレベルの設定とシャットダウン
3	Linuxのインストールとパッケージ管理	ハードディスクレイアウト、ブートマネージャ、共有ライブラリ管理、パッケージ
4	GNUとUnixのコマンド（1）	コマンドライン操作、メタキャラクタ、複数コマンドの実行オプション、環境変数 ファイル管理、ストリーム、パイプ、リダイレクト処理
5	GNUとUnixのコマンド（2）	プロセスの管理、正規表現、viを使用したファイル編集
6	デバイス、Linuxファイルシステム	パーティションとファイルシステム、リンクの作成・変更
7	システム、シェル	変数、bashの設定ファイル、関数、シェルスクリプト
8	ユーザーインタフェース	GUI、デスクトップ環境、アクセシビリティ
9	タスクの管理（1）	アカウント管理、タスク管理、ジョブスケジューリング
10	タスクの管理（2）	タイムゾーン、ロケール管理、タイム、ログ管理
11	必須システムサービス	印刷設定、メール設定、ネットワーク関連ファイル、ネットワークマネージャ管理
12	ネットワーク	通信の疎通、ネットワーク操作・設定コマンド
13	セキュリティ	セキュリティ管理コマンド、ホストのセキュリティ設定、暗号化
14	総まとめ（1）	これまでの知識のアウトプットを実施（1）
15	総まとめ（2）	これまでの知識のアウトプットを実施（2）
16	前期試験期間	–

備　考	–

情報ネットワーク科	2年

【後期】

科　目	ゲーム制作S	分　類	専門科目、任選科目
担　当	朝賀　勝広		
テキスト（出版社）	–		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

ゲーム制作に関する講義と実習

2. 授業の目標（検定取得など）

ゲームエンジン「Godot」を使い、コンピューターゲームの基本的な仕組み、考え方、それに必要なプログラミングなどの基礎知識と技術を身につける

3. 注意点・要望

開発ツールの使い方を覚え、自分の手でプログラムを作成できるようにすること
協力しながら開発して構わない。お互いに教え合うことで自分の理解も深めること

4. 関連科目

–

週	テーマ	内　容
1	ガイダンス Godotエンジンの概要	ゲーム開発の基本概念の説明 Godotエンジンの特徴やプロジェクトの作成方法
2	プロジェクトの作成とエディタの基本	プロジェクトの作成と管理 シーンエディタの基本的な操作
3	シーンとノードの理解	シーンとノードの基本概念 シーンエディタを使用してノードの配置と連携
4	GDScriptについて	GDScriptの基本構文、変数、条件分岐、繰り返し構造
5	キャラクターの制御	プレイヤーキャラクターの動きの制御 入力処理の実装
6	衝突とアクション	衝突の検知と基本的なアクションの追加 アニメーションの制御
7	ゲームのデバッグと改善	ゲームのデバッグとテスト方法
8	サンプルゲーム制作(1)	サンプルゲーム作成
9	サンプルゲーム制作(2)	作成したサンプルゲームの解説
10	サンプルゲーム制作(3)	作成したサンプルゲームの改造
11	自由制作(1)	オリジナルゲームの制作(1)
12	自由制作(2)	オリジナルゲームの制作(2)
13	自由制作(3)	オリジナルゲームの制作(3)
14	自由制作(4)	オリジナルゲームの制作(4)
15	発表	作成したオリジナルゲームの発表
16	–	–

備　考	– システム開発経験のある教員が、実務経験を生かしてプログラミングの講義を行う。

情報ネットワーク科	2年

【前期】

科　目	Office演習応用S	分　類	専門科目、必選科目
担　当	加藤　尚喜		
テキスト （出版社）	できるWord 2024 Copilot対応 Office 2024 & Microsoft 365版（インプレス） できるPowerPoint 2024 Copilot対応 Office 2024 & Microsoft 365版（インプレス）		
参考資料	プリント資料		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	40%	10%	0%	50%	100%

単位数	4

1. 授業の概要

Microsoft Word / PowerPoint の実用的な使用方法を習得する。

2. 授業の目標（検定取得など）

実務に役立つ文書及びプレゼン資料を作成し、発表できる能力を身につける。

3. 注意点・要望

入力操作を単に記憶するのではなく、作成内容に応じて適切な操作ができるように留意すること

4. 関連科目

Office演習Ⅰ・Ⅱ（1年次）

週	テーマ	内　容
1	Word 演習(1)	授業の目標、進め方及び評価方法の確認、Word の基本
2	Word 演習(2)	文書の管理（ファイルの作成・保存、文書の検索など）
3	Word 演習(3)	文書の加工（文字の修飾、段落、セッション区切りなど）
4	Word 演習(4)	表・リストの管理、参考資料の作成及び管理
5	Word 演習(5)	図形・グラフィック要素の設定
6	Word 演習(6)	高度な機能設定(テンプレート管理、編集機能など)
7	Word 演習(7)	印刷設定（フィールドコート、差し込み印刷）、マクロの概要
8	PowerPoint 演習(1)	PowerPoint の基本 スライドの管理(1)（スライドマスターの使用方法など）
9	PowerPoint 演習(2)	スライドの管理(2)（スライドの挿入、変更、印刷設定など）
10	PowerPoint 演習(3)	作成技術 (1)（図形・グラフィック要素の設定など）
11	PowerPoint 演習(4)	作成技術 (2)（アニメーション、画面切替など）
12	PowerPoint 演習(5)	プレゼンテーション技法 (1)（プレゼンテーションの基本的な考え方）
13	PowerPoint 演習(6)	プレゼンテーション技法 (2)（スライドの構成・配置など）
14	PowerPoint 演習(7)	プレゼンテーション技法 (3)（グラフ・表・アニメーションなどの効果的な使用方法）
15	PowerPoint 演習(8)	課題発表会(PowerPointによるプレゼンテーション)
16	前期試験期間	–

備　考	–

情報ネットワーク科	2年

【後期】

科　目	応用情報サービスマネジメント対策講座S	分　類	専門科目、任選科目
担　当	野本　修平		
テキスト（出版社）	オリジナル教材		
参考資料	–		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	30%	0%	20%	50%	100%

単位数	1

1. 授業の概要

応用情報技術者試験合格に向けて、サービスマネジメントの基礎知識、基本となる考え方を学ぶ。

2. 授業の目標（検定取得など）

応用情報技術者試験の合格。

3. 注意点・要望

講義を受けた後に自学自習をしないと知識は抜けてしまいます。しっかり復習をすること。

4. 関連科目

–

週	テーマ	内　容
1	インフラストラクチャの概要	オンプレミス、クラウドにおけるシステム運用に関するインフラストラクチャの説明
2	SLA、OLAの概要	SLA、OLAの内容、軸、考え方を理解する
3	運用保守における用語説明	システム移行やリハーサルの流れ、その他関連する単語の理解
4	可用性、信頼性など	MTBF、MTTRなどの計算問題の理解
5	サービスオペレーション	ITIL準拠のサービスオペレーションの全容を理解する
6	インシデント対応(1)	サポートデスクにおけるインシデント対応
7	インシデント対応(2)	インシデント発生時のけるエスカレーション
8	インシデント対応(3)	インシデント対応時のIT技術利用
9	インシデント対応(4)	インシデントのプライオリティと切り分けの考え方
10	暫定対処と恒久対処	インシデントに対する暫定対処と恒久対処
11	問題管理	問題管理における考え方
12	変更管理	バージョン管理やインフラのシステム管理
13	サービスデザイン	クラウドを利用した形でのサービスデザイン
14	キャパシティ管理	運用保守におけるキャパシティ管理の考え方
15	文章管理と資産管理	運用保守における文章管理と資産管理
16	後期試験期間	–

備　考	IT業界でPM経験を有する教員が講義を行う

情報ネットワーク科	2年

【後期】

科　目	応用情報総合対策講座S	分　類	専門科目、任選科目
担　当	清田　玲摩・松脇　和樹		
テキスト（出版社）	–		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	0%	50%	0%	50%	100%

単位数	1

1. 授業の概要

応用情報技術者試験の基礎知識の学習

2. 授業の目標（検定取得など）

応用情報技術者試験午前問題が解けるようになる

3. 注意点・要望

週に1回しかない為、わからないことはその日のうちに解消しておくこと

4. 関連科目

–

週	テーマ	内　容
1	テクノロジ(1)	基礎理論について(1)
2	テクノロジ(1)	基礎理論について(2)
3	テクノロジ(2)	コンピュータシステムについて(1)
4	テクノロジ(2)	コンピュータシステムについて(2)
5	テクノロジ(3)	技術要素について(1)
6	テクノロジ(3)	技術要素について(2)
7	テクノロジ(4)	技術要素について(3)
8	テクノロジ(4)	技術要素について(4)
9	マネジメント(1)	プロジェクトマネジメントについて(1)
10	マネジメント(1)	プロジェクトマネジメントについて(2)
11	マネジメント(2)	サービスマネジメント(1)
12	マネジメント(2)	サービスマネジメント(2)
13	ストラテジ(1)	システム戦略、経営戦略(1)
14	ストラテジ(1)	システム戦略、経営戦略(2)
15	ストラテジ(2)	経営戦略、企業と法務(1)
16	ストラテジ(2)	経営戦略、企業と法務(2)

備　考	-

情報ネットワーク科	2年

【後期】

科　目	実践的セキュアプログラミング演習S	分　類	専門科目、必選科目
担　当	石神　和也		
テキスト（出版社）	–		
参考資料	–		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

実業務で活用されているプログラミングに関するテクニックやセキュリティについて学びます。会社の新人研修に近い形式での実習を行うことができます。

2. 授業の目標（検定取得など）

入社1年目が起こしやすいミスなどを事前に理解し、対策を講じることができるようになることを目標としています。

3. 注意点・要望

JSPやHTML/jsなどを用いて簡単なWebアプリが構築できることが望ましいです。

4. 関連科目

–

週	テーマ	内　容
1	プログラミングテクニック(1)	プログラミングの実践的なテクニックを学ぶ。また、作成したプログラムに対してコードレビューや検討会を実施する。(1)
2	プログラミングテクニック(2)	プログラミングの実践的なテクニックを学ぶ。また、作成したプログラムに対してコードレビューや検討会を実施する。(2)
3	プログラミングテクニック(3)	プログラミングの実践的なテクニックを学ぶ。また、作成したプログラムに対してコードレビューや検討会を実施する。(3)
4	プログラミングテクニック(4)	プログラミングの実践的なテクニックを学ぶ。また、作成したプログラムに対してコードレビューや検討会を実施する。(4)
5	プログラミングテクニック(5)	プログラミングの実践的なテクニックを学ぶ。また、作成したプログラムに対してコードレビューや検討会を実施する。(5)
6	プログラミングテクニック(6)	プログラミングの実践的なテクニックを学ぶ。また、作成したプログラムに対してコードレビューや検討会を実施する。(6)
7	プログラミングテクニック(7)	プログラミングの実践的なテクニックを学ぶ。また、作成したプログラムに対してコードレビューや検討会を実施する。(7)
8	プログラミングテクニック(8)	プログラミングの実践的なテクニックを学ぶ。また、作成したプログラムに対してコードレビューや検討会を実施する。(8)
9	セキュアプログラミング(1)	XSS攻撃やSQLインジェクションなどのセキュリティ対策だけでなく、共通化や例外処理など運用上においてのセキュアなプログラミングについて学ぶ。(1)
10	セキュアプログラミング(2)	XSS攻撃やSQLインジェクションなどのセキュリティ対策だけでなく、共通化や例外処理など運用上においてのセキュアなプログラミングについて学ぶ。(2)
11	セキュアプログラミング(3)	XSS攻撃やSQLインジェクションなどのセキュリティ対策だけでなく、共通化や例外処理など運用上においてのセキュアなプログラミングについて学ぶ。(3)
12	セキュアプログラミング(4)	XSS攻撃やSQLインジェクションなどのセキュリティ対策だけでなく、共通化や例外処理など運用上においてのセキュアなプログラミングについて学ぶ。(4)
13	セキュアプログラミング(5)	XSS攻撃やSQLインジェクションなどのセキュリティ対策だけでなく、共通化や例外処理など運用上においてのセキュアなプログラミングについて学ぶ。(5)
14	セキュアプログラミング(6)	XSS攻撃やSQLインジェクションなどのセキュリティ対策だけでなく、共通化や例外処理など運用上においてのセキュアなプログラミングについて学ぶ。(6)
15	セキュアプログラミング(7)	XSS攻撃やSQLインジェクションなどのセキュリティ対策だけでなく、共通化や例外処理など運用上においてのセキュアなプログラミングについて学ぶ。(7)
16	セキュアプログラミング(8)	XSS攻撃やSQLインジェクションなどのセキュリティ対策だけでなく、共通化や例外処理など運用上においてのセキュアなプログラミングについて学ぶ。(8)

備　考	システムエンジニアとして開発リーダー経験が豊富な教員が講義を行う

情報ネットワーク科	2年

【後期】

科　目	Javaプログラミング演習S	分　類	専門科目、必選科目
担　当	須藤 健一郎		
テキスト（出版社）	–		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	40%	10%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

Javaを通じて、基本的なプログラミングを学習するための授業です。
プログラミングの基礎から、オブジェクトの入口まで学習します。

2. 授業の目標（検定取得など）

就職前に、プログラミング言語を活用できるまでの力を身に着けることが目的です。
ゆっくりペースでかみ砕き、基本的なプログラムの流れを理解します。

3. 注意点・要望

1回欠席した場合、追いつくのが大変になってしまう回もあります。
休まず出席し、プログラムが動いたときの達成感をモチベーションに、じっくり学んで行きましょう。

4. 関連科目

–

週	テーマ	内　容
1	オリエンテーション Java言語の概要と開発環境構築	授業の目標、進め方及び評価方法の理解 Java言語の概要の理解、統合開発環境(IDE)の使い方
2	プログラムの基本的な書き方	プログラムの全体構成、ブロックとインデント、コメント文、 2種類のコンソール出力(printlnメソッドとprintメソッド)
3	データ型と変数	データ型の種類と役割、変数、変数の宣言
4	変数とキーボード入力	変数とキーボードから入力した値を扱う
5	式と演算子	四則演算やインクリメント、演算子の優先順位
6	分岐処理(1)	if文を使った分岐処理
7	分岐処理(2)	if-else文を使った分岐処理
8	分岐処理(3)	if-elseif-else文を使った分岐処理
9	繰り返し処理(1)	for文を使った繰り返し処理
10	繰り返し処理(2)	while文を使った繰り返し処理
11	繰り返し処理(3)	while文にif文、break文を加えた繰り返し処理
12	配列(1)	配列の仕組み、宣言と利用方法
13	配列(2)	繰り返しと配列を組み合わせたプログラム作成の基礎
14	配列(3)	繰り返しと配列を組み合わせたプログラム作成の応用
15	メソッド	メソッドの構造と作成方法、引数・戻り値の理解、呼び出し方法
16	後期試験期間	–

備　考	–

情報ネットワーク科	2年

【後期】

科　目	応用情報プロジェクトマネジメント対策講座S	分　類	専門科目、必選科目
担　当	野本　修平		
テキスト（出版社）	オリジナル教材		
参考資料	–		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	30%	0%	20%	50%	100%

単位数	1

1. 授業の概要

応用情報技術者試験合格に向けて、プロジェクトマネジメントの基礎知識、基本となる考え方を学ぶ。

2. 授業の目標（検定取得など）

応用情報技術者試験の合格。

3. 注意点・要望

講義を受けた後に自学自習をしないと知識は抜けてしまいます。しっかり復習をすること。

4. 関連科目

–

週	テーマ	内　容
1	システム開発のV字モデル	システム開発における全体の流れを理解し、各工程での役割を意識する
2	各種開発技法	アジャイル・ウォーターホールにおけるプロジェクトマネジメントのポイントを学ぶ
3	プロジェクトマネジメントにおける考え方	組織における業務部門間の調整や、ベンダーとのやり取りにおけるケアするポイントを学ぶ
4	コストマネジメント	コストマネジメントを行う上での注意点/EVMの計算方法
5	調達マネジメント	資源調達、ベンダー調達におけるポイントを学ぶ
6	品質マネジメント	成果物品質におけるプロジェクトマネジメントの考え方を学ぶ
7	ステークホルダーマネジメント	ステークホルダーをコントロールするためのコミュニケーション技法などを学ぶ
8	コミュニケーションマネジメント	プロジェクトマネジメントにおいてのコミュニケーションマネジメントを体系的に学ぶ
9	スコープマネジメント	WBSなどを題材としてプロジェクトにおけるスコープの確定方法、変更手順などを学ぶ
10	プロジェクトの終結	各知識エリアに紐づくプロジェクトの終結フェーズを学ぶ
11	統合マネジメント	PMBOKをベースに各種知識エリアの内容を踏まえた全体像を学ぶ
12	応用情報過去問題演習(1)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(1)
13	応用情報過去問題演習(2)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(2)
14	応用情報過去問題演習(3)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(3)
15	応用情報過去問題演習(4)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(4)
16	後期試験期間	–

備　考	IT業界でPM経験を有する教員が講義を行う

情報ネットワーク科	2年

【前期】

科　目	応用情報午前対策講座S	分　類	専門科目、任選科目
担　当	松脇　和樹・高橋　洋平		
テキスト（出版社）	オリジナル教材		
参考資料	–		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	20%	30%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

午前問題では、基本的なIT用語や技術、理論的な知識を中心に学習し、効率的に理解できるような勉強方法を工夫します。
午後問題では、実際の問題を通じて、午前の知識がどれだけ重要であるかを実感し、より深い理解を得ていきます。

2. 授業の目標（検定取得など）

応用情報技術者試験の午前問題において、データベース・ネットワークを除く基礎知識をしっかりと身につけます。
得点の6～7割を確保できることを目標とします。

3. 注意点・要望

毎週の課題をしっかりとこなしてください。

4. 関連科目

–

週	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業の目的、勉強の進め方
2	基礎理論(1)	離散数学
3	基礎理論(2)	応用数学
4	プロジェクトマネジメント概要、日程管理、コスト管理	プロジェクトマネジメントの目的、PMBOK、スコープ管理、アローダイアグラム、進捗管理、見積り技法
5	リスク管理、サービスマネジメント、システム監査	リスク、リスクの識別、リスク対応計画、ITIL、SLA、システム監査の目的、システム監査人、システム監査の流れ、内部統制
6	企業の組織、財務会計、棚卸評価、財務分析、損益分岐点分析	企業活動、経営組織、財務諸表、棚卸評価、財務分析、費用、利益、損益分岐点分析
7	オペレーションズ・リサーチ、知的財産権、労働と契約の法制度	オペレーションズ・リサーチ、線形計画法、在庫管理、QC七つ道具、インダストリアルエンジニアリング、知的財産権の種類、労働者派遣法
8	応用情報午前対策(1)	小テスト(1)
9	コンピュータ要素	プロセッサ、メモリ、入出力装置
10	システム構成要素	構成要素、評価指標
11	ソフトウェア	OS、開発ツール、OSS
12	ハードウェア、ヒューマンインタフェース マルチメディア	ハードウェア、ヒューマンインタフェース、インターフェース設計、マルチメディア
13	セキュリティ(1)	情報セキュリティの管理、評価、対策、実装、攻撃手法(1)
14	セキュリティ(2)、開発技術	情報セキュリティの管理、評価、対策、実装、攻撃手法(2) システム開発
15	応用情報午前対策(2)	小テスト(2)
16	前期試験期間	–

備　考	-

情報ネットワーク科	2年

【後期】

科　目	キャリアデザインS	分　類	教養科目、必選科目
担　当	教務部		
テキスト（出版社）	–		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

講師たちの経験に基づき、社会人として働きはじめてから役に立つ知識や技術などの講義を行います。授業では複数の講師が週替わりで登壇し、より多くの視点に気付ける機会にも繋がります。

2. 授業の目標（検定取得など）

様々な知見を得ることで入社後に活躍できる社会人を目指します。そのための土台を作り上げることを目標とします。

3. 注意点・要望

講師により講義の内容が変化していきます。常にメモを取れる姿勢を持つことが重要です。

4. 関連科目

–

週	テーマ	内　容
1	キャリアデザイン(1)	ビジネスマナー、社会人としてのたしなみ、技術者としての振る舞い、金銭管理など様々な分野、様々な視点から将来のキャリアデザインを構築する(1)
2	キャリアデザイン(2)	ビジネスマナー、社会人としてのたしなみ、技術者としての振る舞い、金銭管理など様々な分野、様々な視点から将来のキャリアデザインを構築する(2)
3	キャリアデザイン(3)	ビジネスマナー、社会人としてのたしなみ、技術者としての振る舞い、金銭管理など様々な分野、様々な視点から将来のキャリアデザインを構築する(3)
4	キャリアデザイン(4)	ビジネスマナー、社会人としてのたしなみ、技術者としての振る舞い、金銭管理など様々な分野、様々な視点から将来のキャリアデザインを構築する(4)
5	キャリアデザイン(5)	ビジネスマナー、社会人としてのたしなみ、技術者としての振る舞い、金銭管理など様々な分野、様々な視点から将来のキャリアデザインを構築する(5)
6	キャリアデザイン(6)	ビジネスマナー、社会人としてのたしなみ、技術者としての振る舞い、金銭管理など様々な分野、様々な視点から将来のキャリアデザインを構築する(6)
7	キャリアデザイン(7)	ビジネスマナー、社会人としてのたしなみ、技術者としての振る舞い、金銭管理など様々な分野、様々な視点から将来のキャリアデザインを構築する(7)
8	キャリアデザイン(8)	ビジネスマナー、社会人としてのたしなみ、技術者としての振る舞い、金銭管理など様々な分野、様々な視点から将来のキャリアデザインを構築する(8)
9	キャリアデザイン(9)	ビジネスマナー、社会人としてのたしなみ、技術者としての振る舞い、金銭管理など様々な分野、様々な視点から将来のキャリアデザインを構築する(9)
10	キャリアデザイン(10)	ビジネスマナー、社会人としてのたしなみ、技術者としての振る舞い、金銭管理など様々な分野、様々な視点から将来のキャリアデザインを構築する(10)
11	キャリアデザイン(11)	ビジネスマナー、社会人としてのたしなみ、技術者としての振る舞い、金銭管理など様々な分野、様々な視点から将来のキャリアデザインを構築する(11)
12	キャリアデザイン(12)	ビジネスマナー、社会人としてのたしなみ、技術者としての振る舞い、金銭管理など様々な分野、様々な視点から将来のキャリアデザインを構築する(12)
13	キャリアデザイン(13)	ビジネスマナー、社会人としてのたしなみ、技術者としての振る舞い、金銭管理など様々な分野、様々な視点から将来のキャリアデザインを構築する(13)
14	キャリアデザイン(14)	ビジネスマナー、社会人としてのたしなみ、技術者としての振る舞い、金銭管理など様々な分野、様々な視点から将来のキャリアデザインを構築する(14)
15	キャリアデザイン(15)	ビジネスマナー、社会人としてのたしなみ、技術者としての振る舞い、金銭管理など様々な分野、様々な視点から将来のキャリアデザインを構築する(15)
16	キャリアデザイン(16)	ビジネスマナー、社会人としてのたしなみ、技術者としての振る舞い、金銭管理など様々な分野、様々な視点から将来のキャリアデザインを構築する(16)

備　考	技術者、マネージャー、経理などの経歴を持つ講師たちが実践的な講義を行う

情報ネットワーク科	2年

【前期】

科　目	Pythonプログラミング演習S	分　類	専門科目、任選科目
担　当	飯田　剛大・石神　和也		
テキスト（出版社）	スッキリわかるPython入門　第2版（株式会社インプレス）		
参考資料	–		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

Pythonの基本構文と様々なライブラリの使い方について学習する。

2. 授業の目標（検定取得など）

Pythonを用いて目的とするプログラムを作成するための基礎を身につける。

3. 注意点・要望

–

4. 関連科目

–

週	テーマ	内　容
1	導入	Pythonプログラムの開発環境と実行方法の確認
2	変数とデータ型	式、演算、変数、データ型
3	コンテナ	リスト、ディクショナリ、タプル、セット
4	条件分岐(1)	条件分岐の構造、条件式
5	条件分岐(2)	分岐構文のバリエーション
6	繰り返し(1)	繰り返しの構造、for文
7	繰り返し(2)	繰り返しの制御
8	関数(1)	オリジナル関数の作成
9	関数(2)	引数と戻り値
10	関数(3)	関数の応用
11	オブジェクト(1)	オブジェクトについて
12	オブジェクト(2)	クラス
13	モジュール(1)	組み込み関数やモジュールを使ったプログラム
14	モジュール(2)	組み込み関数やモジュールを使ったプログラム
15	モジュール(3)	パッケージや外部ライブラリを使ったプログラム
16	–	–

備　考	システム開発経験のある教員が、実務経験を生かしてプログラミングの講義を行う

情報ネットワーク科	2年

【後期】

科　目	応用情報システム監査対策講座S	分　類	専門科目、必選科目
担　当	橘　純平		
テキスト（出版社）	オリジナル教材		
参考資料	–		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	30%	0%	20%	50%	100%

単位数	1

1. 授業の概要

応用情報技術者試験合格に向けて、システム監査の基礎知識、基本となる考え方を学ぶ。

2. 授業の目標（検定取得など）

応用情報技術者試験の合格。

3. 注意点・要望

毎回の知識の積み重ねが必要となる科目なので、欠席をしないこと。

4. 関連科目

–

週	テーマ	内　容
1	ITガバナンス及びIT統制と監査	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(1)
2	システムの企画、開発、運用、保守破棄プロセスの監査	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(2)
3	プロジェクト管理の監査	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(3)
4	アジャイル開発の監査	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(4)
5	外部サービス管理の監査	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(5)
6	情報セキュリティ監査	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(6)
7	個人情報保護監査	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(7)
8	システム監査関連法規	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(8)
9	システム監査人の倫理	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(9)
10	応用情報過去問題演習(1)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(1)
11	応用情報過去問題演習(2)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(2)
12	応用情報過去問題演習(3)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(3)
13	応用情報過去問題演習(4)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(4)
14	応用情報過去問題演習(5)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(5)
15	応用情報過去問題演習(6)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(6)
16	後期試験期間	–

備　考	–